

## 図書紹介

川井修 一陸自77著

『元自衛隊員のおじいちゃんによる続・孫たちへの贈り物』

杉本 順則 陸自77

著者は防衛大学校第21期生で、第9師団司令部4部長、第1空挺団本部高級幕僚、対馬警備隊長兼ねて対馬駐屯地司令など第一線での勤務と少年工科学校副校長、陸自研究本部第4課長などを歴任し、平成22年に陸将補で定年退官した人物である。題名に「続」とあるように、『孫たちへの贈り物』の続編として出版されたもので、防衛問題に取り組み始める方々や既に防衛問題の研究者の方にも、問題点の整理やこれまでの経緯など参考になることがあるように思う次第である。

記述については、孫と爺との会話形式での防衛論議である。孫5人は、航、尊、爽、琉、悠と恵まれたうらやましい家庭環境である。最初に「おじいちゃん！戦争が起らないようにすることはできないの？」と素朴な質問をぶつけられる。すると、著者の爺は、自らが考える「防衛政策の考え方」、「戦争と武力行使に関する考え方」を第1章で平易な言葉で語りかける。そして、第2章で安全

保障環境の変化を述べて、川井氏の考える「わが国の安全保障政策」が第3章で語られる。そして第4章で「確かなシビリアンコントロール機能」これが一番言いたかったことであろう。スーダンPKO日報問題を絡めて書いてある。一読の価値ある本である。

著者は、防衛政策の根拠を、憲法解釈に求めてきた慣習を問題視し、改善策として、自衛のための戦争と軍隊の保有について解釈の余地を残さない憲法の条文とすることを提案しているが、最終章「おわりに」で、反論、お叱り、ご意見等なんでもいただければと、防衛に関する議論の輪が広がることを願っている。初版でも「国民を挙げて防衛論議をしなければならぬ時が来た」と述べているが、参議院議員選挙も終わり、改憲勢力もそれなりに確保でき、各政党も現行憲法そのままではこれからの状況には対応できなくなっていることは認めているのであるから、国会においても、憲法論議は是非活発に論議してもらいたい。憲法は不磨の大典ではない。著者が望むように国民挙げての防衛論議が活発化するのを期待するものである。

まつやま書房

355 0017 東松山市松葉町三二―二―五

電0493―22―4162

価格1500+税